

令和6（2024）年度文部科学省委託 現職日本語教師研修プログラム普及事業
日本語教師【中堅】に対する研修

公益社団法人日本語教育学会
日本語教育学会の人材、知財、ネットワークを活かした
中堅日本語教師のための研修プログラム(略称:JCN 研修)
中堅研修コース／講師育成(研修企画)コース
募集要項

中堅研修コース

I. 研修について

1. 本研修の趣旨・目的

公益社団法人日本語教育学会は、令和6（2024）年度文部科学省「現職日本語教師研修プログラム普及事業」を受託し、中堅日本語教師のための研修（以下、中堅研修コース）、および研修担当講師の育成研修（以下、講師育成（研修企画）コース）を実施いたします。

「中堅研修コース」では、文化庁（2019）『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』で示された日本語教育人材の養成・研修における「日本語教師【中堅】に求められる資質・能力」および「研修における教育内容」を踏まえた内容を提供します。その目的は、これまでに自らが行ってきた日本語教育実践を振り返り、俯瞰し、それらを理論的・メタ的に位置づける活動を通じて、これからの日本語教育の如何なる多様化にも対応し、日本語学習環境を整えることができる日本語教師【中堅】を育成することです。

「講師育成（研修企画）コース」では、文化庁（2019）で示された日本語教育人材の養成・研修における「日本語教育コーディネーターに求められる資質・能力」および「研修における教育内容」を踏まえた内容を提供します。その目的は、中堅日本語教師の研修を立案・設計し、研修を運営・実施できる人材を育成することです。

これら2つのコースは、日本語教育学会の様々な人材（Jinzai）、知財（Chizai）、ネットワーク（Network）を活用してオンラインで実施します。ここでは、「中堅研修コース」の募集要項を説明します（「講師育成（研修企画）コース」については、p.8以降をご覧ください）。

2. 研修実施期間

令和6（2024）年7月15日（月）～令和7（2025）年1月26日（日）

3. 実施方法

3.1. 遠隔による研修の実施

本研修は、全てオンラインで実施します。「同期型研修（Web会議システムによるスクーリング）」と「非同期型研修（講義動画の視聴、および、LMS（Learning Management System）、チャットツールの利用）」を組み合わせた複合型の学習形態です。Web会議システムにはZoomを用います。また、LMSとしてWisdomBaseを、チャットツールとしてLINE WORKSを使用します。詳細については、事前準備期間にお知らせします。

3.2. 研修の特徴

(1) 研修テーマ

「つなげる・つながることを通じた実践の改善と教師の成長」を研修テーマとし、受講生が各現場から見出した具体的な課題を以下のような視点から整理、検討します。

- (1) 日本の在留外国人施策・制度
- (2) 関係府省庁による日本語教育施策
- (3) 日本語の試験
- (4) 国内外の多様な日本語教育事情
- (5) 学習者の社会参加
- (6) 異文化間トレランス
- (7) 言語学習・教育の情意的側面
- (8) 日本語教育プログラムおよび教育環境デザイン
- (9) 目的・対象別日本語教育法
- (10) 評価法
- (11) 異領域との協働
- (12) 日本語教育プログラムにおける ICT の活用・著作権
- (13) マネジメント能力
- (14) 事務・管理能力
- (15) 人材育成能力
- (16) ネットワーキング力
- (17) その他

(2) チームで研修活動を行う

本研修では、他者とのつながりと協働を重視します。そのために、受講生は応募時に提出した自らの課題を一人で考えるとともに、いくつかのチームに分かれ、チームとしても研修活動を行います。一人で考え、解決するのではなく、組織や専門分野をこえた様々なリソースを活用し、つながることの重要性とダイナミズムを経験します。

(3) 各自の課題を自ら設定し、自ら解決する

各自の課題や解決方法を誰かに教えてもらうのではなく、自ら課題を設定し、チームで解決にあたります。 そのために、現場を分析して理解を深め、他者とのつながりの中で解決の糸口を自ら発見し課題に取り組みます。その過程を通じて、日本語教師としての成長と専門性のさらなる充実を目指します。

(4) 日本語教育学会のリソースを活用する

研修生は、各チームの課題を解決するために、日本語教育学会の様々な人材（Jinzai）、知財（Chizai）、ネットワーク（Network）を活用して必要な情報を収集、発信、共有します。

(5) 6 期に分けて実施

令和 6（2024）年 7 月から令和 7（2025）年 1 月までの約 7 ヶ月の研修期間を、6 期に区分して実施します。各期は、「講義」と「演習」から構成され、それぞれに Zoom によるスクーリング（同期型研修）が行われます。さらに、研修全体を通して LMS とチャットツールを利用した課題の遂行と意見交換が並行して行われます。その他、1 月に修了レポートの提出が求められます。

(6) LMS とチャットツールを利用した非同期型研修

全研修期間を通じ、LMS（WisdomBase）とチャットツール（LINE WORKS）を利用して、チームでの意見交換、情報収集、成果報告などを行います（非同期型研修）。チームにはそれ

ぞれ研修担当の講師がアドバイザーとして付き添い、伴走します。必要に応じて文献や参考資料などを紹介し、意見交換を行います。アドバイザーもリソースの一つです。どのように活かして課題解決につなげるか、人的リソースの有効的な活用を体験します。具体的には、講義と演習の合間にLMSとチャットツールを利用して次のことを行います。

1. 各種課題の提出
2. チームによる進捗状況報告
3. 課題解決方法の検討と決定
4. 改善案の検討
5. 成果発表会に関する協力・連絡
6. その他、個別のネットワーキング

(7)提出物

受講生は、研修期間を通じて以下の成果物を提出しなければなりません。

1. 「講義の課題」(講義動画/ライブ講義に関する理解の確認と考察を報告：個人で提出)
2. 「演習の課題」(個人やチームでの課題解決の進捗報告：個人で提出)
3. 「振り返りシート」(スクーリングの振り返り：個人で提出)
4. 「研修成果のまとめ」(チームでの課題解決の成果報告：チームで提出)
5. 「修了レポート」(研修終了時の各自の学びの総括：個人で提出)
6. 「自己評価票」(中堅の資質・能力や研修に関する評価：個人で提出)

4. 実施内容

4.1. 研修の進め方

(1)事前準備

事前準備としてガイダンス動画の事前視聴等に取り組みます。

(2)講義・演習

各期は原則として【講義】と【演習】の組み合わせで構成します。総単位数は40単位で、【講義】20単位、【演習】20単位です(1単位45分)。「講義」と【演習】の内容と単位数は以下の通りです。

1. 【講義】(4単位)：講義(講義動画/ライブ講義)の視聴(1単位)＋課題の遂行(1単位)＋スクーリング(2単位)
 - ・ 講義では、動画教材による講義をスクーリング前に各自で視聴(講義動画)、あるいは、同期型研修でのライブ講義に参加します。
 - ・ 講義視聴後、スクーリングのアドバイザーが指定する課題を遂行します。
 - ・ 課題提出後、Zoomによるスクーリングで課題の振り返りや発展的学習を行います。
2. 【演習】(4単位)：事前課題の遂行(1単位)＋スクーリング(2単位)＋事後課題の遂行(1単位)
 - ・ スクーリングの前に事前課題として、課題解決の進捗状況を報告します。
 - ・ Zoomによるスクーリングで課題の共有や議論などを行い、自身の研修課題の解決を図ります。
 - ・ スクーリングの議論を踏まえてチーム内での振り返りや事後課題を遂行します。

(ただし、1期は講義1(ライブ講義)の聴講1単位＋スクーリング3単位の計4単位、6期は成果発表会への参加によって4単位となります。)

なお、本研修では講義動画の視聴等を行います。全体としては講義受講型の研修ではなく、

参加者が自らの課題を他の参加者との協働によって解決していく課題解決型の研修であることにご留意ください。

＜中堅研修コース:各期の内容と単位数＞ * []内の数字は単位数

期	1期 [4]	2期 [8]	3期 [8]	4期 [8]	5期 [8]	6期 [4]
時期	7月	8月	9月	10月	11月	12～1月
内容	講義 講義1 [4]	講義2視聴[1] 課題の遂行[1] スクーリング[2]	講義3視聴[1] 課題の遂行[1] スクーリング[2]	講義4視聴[1] 課題の遂行[1] スクーリング[2]	講義5視聴[1] 課題の遂行[1] スクーリング[2]	
	演習	課題の遂行[1] スクーリング[2] 課題の遂行[1]	課題の遂行[1] スクーリング[2] 課題の遂行[1]	課題の遂行[1] スクーリング[2] 課題の遂行[1]	課題の遂行[1] スクーリング[2] 課題の遂行[1]	成果発表会 [4]

4.2. 2024年度中堅研修コースのスケジュールと提出物の締切

基本的に以下の全てのスクーリングおよび成果発表会に参加することと、全ての提出物を期限内に提出することが求められます。

は、スクーリングの実施日時。 の日は、個人/チームの課題の提出期限。日時はいずれも日本時間。

月	日	曜日	時間	研修	内容/提出物
7				事前準備	ガイダンス動画の視聴
7	27	土	13:00-16:30	スクーリング1	オリエンテーション 講義1(ライブ講義)と講義1に関する意見交換
8	4	日	17:00	課題の遂行 講義の視聴	振り返りシート・自己評価票
8	18	日	17:00		講義2の視聴, 講義・演習の課題
8	24	土	13:00-16:30	スクーリング2	講義2に関する意見交換 各自の課題に関する意見交換
9	1	日	17:00	課題の遂行 講義の視聴	振り返りシート
9	15	日	17:00		講義3の視聴, 講義・演習の課題
9	21	土	13:00-16:30	スクーリング3	講義3に関する意見交換 各自の課題に関する意見交換
9	29	日	17:00	課題の遂行 講義の視聴	振り返りシート
10	13	日	17:00		講義4の視聴, 講義・演習の課題
10	19	土	13:00-16:30	スクーリング4	講義4に関する意見交換 各自の課題に関する意見交換
10	27	日	17:00	課題の遂行 講義の視聴	振り返りシート・自己評価票
11	17	日	17:00		講義5の視聴, 講義・演習の課題
11	23	土	13:00-16:30	スクーリング5	講義5に関する意見交換 各自の課題に関する意見交換
12	1	日	17:00	課題の遂行	振り返りシート
12	15	日	17:00		演習の課題(チームの課題に関して, 成果発表会の資料と動画を作成する)

12	21	土	13:00-16:30	成果発表会	各チームの課題達成状況の報告
1	19	日	17:00	課題の遂行	研修成果まとめ(チームの取り組みをチームでまとめる)
1	26	日	17:00		修了レポート(研修での学びを個人でまとめる) 自己評価票

4.3. 講義(講義動画/ライブ講義)の研修内容

	テーマ	担当講師	
事前 動画	(1)コースガイダンス (2)研究倫理と著作権 (3)文献検索	(1)嶋津百代(関西大学) (2)小林ミナ(早稲田大学)	動画 3本
講義 1	日本語教育施策の動向(仮)	文部科学省総合教育政策局 日本語教育課	ライブ 講義
講義 2	日本語教師と「熟達」(1)~(3)	横溝紳一郎(西南学院大学)	動画 3本
講義 3	「実践を記述する」ということ	石黒広昭(立教大学)	動画 3本
講義 4	課題解決のアプローチ(1)~(3)	石黒広昭(立教大学)	動画 3本
講義 5	「実践」を振り返る/ 異なる実践をつなげる・つながる	横溝紳一郎(西南学院大学)	動画 3本

5. 担当アドバイザー

犬飼英男(名古屋 YMCA 日本語学院), 今井武(石川県国際交流協会), 小河原義朗(東北大学), 御館久里恵(鳥取大学), 加藤林太郎(神田外語大学), 金子史朗(友国際文化学院), 菊池領子(R Production Inc.), 北出慶子(立命館大学), 黒崎誠(ラボ日本語教育研修所), 香月裕介(神戸学院大学), 小坂凜(京都産業大学), 嶋ちはる(国際教養大学), 嶋津百代(関西大学), ツォイ・エカテリーナ(一橋大学), 時本美穂(サピエンツァ・ローマ大学), 中島祥子(鹿児島大学), 永田良太(広島大学), 布尾勝一郎(立命館アジア太平洋大学), 平山允子(日本学生支援機構東京日本語教育センター), 星摩美(福井ランゲージアカデミー), 間瀬尹久(HLA 日本語学校), 柳田直美(早稲田大学), 横山紀子(元・昭和女子大学), 吉川達(立命館大学), 義永美央子(大阪大学)

II. 受講者の募集について

1. 募集人数

70名程度

2. 応募資格と応募条件

(1) 応募資格

中堅日本語教師として十分な経験を有する者(目安として3年以上の日本語教育歴がある者)。

(2) 応募条件

次の7つを全て満たすこと。

1. 本研修の趣旨および本研修が講義受講型ではなく課題解決型の研修であることを理解して

いること。

2. 同期型研修に出席できること。6 回のスクーリング（成果発表会を含む）の全てに参加することを原則とします。
3. オンラインによる同期型研修／非同期型研修を受講できる通信環境とスキルを有すること。インターネット環境、機器、ソフトなどについては、受講者ご自身で整えていただきます。
4. 全研修期間を通じて、Zoom およびチャットツールによる意見交換、情報収集、成果報告などに積極的に参加すること。なお、同期型研修には、本名・カメラオンでご参加いただきます。
5. 日本語でのグループ活動、ディスカッション等の参加に支障がない程度の日本語力を有すること。
6. 参加にあたり、研修実施の妨げとなるような行為や言動を慎むこと。
7. 知的財産権、人格権（個人情報の守秘や肖像権への配慮等）、研究倫理等について理解し、行動すること。

受講が決定しましたら、上記に関する同意書をご提出いただきます。なお、研修開始後、上記の条件を満たさないことが明らかになった場合、研修の継続をお断りさせていただくことがあります。

3. 修了判定

同期型研修と成果発表会への出席率 80%以上、および、課題提出率 80%以上を満たすことを前提に、60%以上の課題達成率を修了の要件とします。

修了判定の結果通知、および修了証の送付は 3 月下旬を予定しています。

4. 応募方法

(1) 参加申込

以下の URL にアクセスし、必要事項を記入してください。締切日までに複数回の応募申請があった場合は、最新の日付のものを有効とします。

以下の申込 URL は、中堅研修コース/講師育成(研修企画)コース(p.8 以降参照)に共通したものです。中堅研修コース/講師育成(研修企画)コースのどちらに応募するかをフォームの中で回答してください。

なお、中堅研修コース/講師育成(研修企画)コースの両方に同時に応募することは可能ですが、同時受講はできません。また、どちらのコースを受講していただくかは JCN 研修運営委員会で審査の上通知します。審査の結果、どちらも受講不可となる場合もあります。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd5UNmG8ZrAmgEFDVMYGL4DiS7qjIXXrDeJVbEKfg7LufNnHg/viewform>

(上記のリンクをクリックしても Google フォームが開かない場合は、お使いのブラウザが最新版かどうかをご確認の上、リンクをコピーしてお試しください)

(2) 事前課題

この研修で取り組みたい、ご自身の日々の教育活動・教育実践から生まれた課題について、以下の 1) ~ 5) の質問に答える形で PDF ファイルを作成し、上記の URL からアップロードしてください（申込に関する情報入力完了後にアップロードが可能になります）。ファイル名は「JCN 中堅事前課題_氏名」としてください（例：「JCN 中堅事前課題_学会太郎」）。

研修参加が認められた場合、ここに書かれた課題を参考にチーム編成を行います。また、研修中はここに書かれた課題の検討・解決に取り組むことが求められます。

- 1) 本研修で取り組みたい課題のタイトルを具体的に書いてください。
- 2) 取り組みたい課題は、あなたのこれまでの教育活動・教育実践とどのように関わっていますか。300～400字程度で説明してください。
- 3) その課題を解決するために、これまでどのようなことに取り組みましたか。200字程度で説明してください。
- 4) その課題を解決するために、何が必要だと考えますか。200字程度で説明してください。
- 5) 5) その課題を解決するために、この研修に期待することは何ですか。200字程度で説明してください。

(3)応募締切:2024年5月31日(金)23:59(JST)

5. 選考

提出された書類を審査し、2024年6月末日までに電子メールにて受講の可否を通知します。選考料は無料です。

6. 受講料

受講料は、一人20,000円(LMS使用料・教材費等を含む)です。

受講が決定しましたらメールでご連絡しますので、指定日までに銀行振込にてお支払いください。あわせて、II.2.に記載した同意書をご提出いただきます。なお、遠隔による研修を受講する上で必要な環境の整備・通信費などは各自の負担となります。また、一度納入された受講料に対して、返金は認められません。

7. 注意事項

本研修は、文部科学省「現職日本語教師研修プログラム普及事業 日本語教師【中堅】に対する研修」を日本語教育学会が受託して実施するものです。研修期間に作成した資料、成果物、LMSでのやりとりなどは、他の受講生(「講師育成(研修企画)コース」受講生を含む)、アドバイザー、日本語教育学会が行う研修評価、研究活動等において利用・分析される場合があります。詳細は研修開始時に改めて説明します。なお、記録のため、同期型研修の様子を録画します。

8. 問い合わせ先

公益社団法人日本語教育学会 JCN 研修事務局
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会 2F
Tel: 03-3262-4291 E-mail: jcn_office@nkg.or.jp

公益社団法人日本語教育学会
日本語教育学会の人材、知財、ネットワークを活かした
中堅日本語教師のための研修プログラム(略称:JCN 研修)
中堅研修コース/講成育成(研修企画)コース
募集要項

講師育成(研修企画)コース

I. 研修について

1. 本研修の趣旨・目的

公益社団法人日本語教育学会は、令和 6（2024）年度文部科学省事業「現職日本語教師研修プログラム普及事業」を受託し、中堅日本語教師のための研修（以下、中堅研修コース）、および研修担当講師の育成研修（以下、講師育成（研修企画）コース）を実施いたします。

「中堅研修コース」では、文化庁（2019）『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』で示された日本語教育人材の養成・研修における「日本語教師【中堅】に求められる資質・能力」および「研修における教育内容」を踏まえた内容を提供します。その目的は、これまでに自らが行ってきた日本語教育実践を振り返り、俯瞰し、それらを理論的・メタ的に位置づける活動を通じて、これからの日本語教育の如何なる多様化にも対応し、日本語学習環境を整えることができる日本語教師【中堅】を育成することです。

「講師育成（研修企画）コース」では、文化庁（2019）で示された日本語教育人材の養成・研修における「日本語教育コーディネーターに求められる資質・能力」および「研修における教育内容」を踏まえた内容を提供します。その目的は、中堅日本語教師の研修を立案・設計し、研修を運営・実施できる人材を育成することです。

これら 2 つのコースは、日本語教育学会の様々な人材（Jinzai）、知財（Chizai）、ネットワーク（Network）を活用してオンラインで実施します。ここでは、「講師育成（研修企画）コース」の募集要項を説明します。

2. 研修実施期間

令和 6（2024）年 7 月 1 日（月）～令和 7（2025）年 2 月 16 日（日）

3. 実施方法

本研修は、全てオンラインで実施します。「同期型研修（Web 会議システムによるスクーリング）」と「非同期型研修（講義動画の視聴、および、LMS（Learning Management System）、チャットツールの利用）」を組み合わせた複合型の学習形態です。Web 会議システムには Zoom を用います。また、LMS として WisdomBase を、チャットツールについては、LINE WORKS を使用します。詳細については、事前準備期間にお知らせします。

受講者は、講義動画の視聴およびライブ講義・演習の受講を通して必要な知識を得ることに加え、上記 1 の「中堅研修コース」（「中堅研修コース」募集要項を必ず参照のこと）にアシスタントとして参加し、観察することで、中堅日本語教師の学びや課題、問題解決の方法を考えます。また、「中堅研修コース」における講義と演習の往還に接することにより、理論と実践のインターフェイスについて学びます。これらを踏まえ、中堅日本語教師に求められる資質・能力やその育成方法について意見交換を行い、日本語教師教育についての理解を深めます。その上で、研修の最終課題として日本語教師【中堅】に対する研修企画案を作成します。

4. 実施内容とスケジュール(35 単位:講義 5 単位+演習 30 単位, 1 単位=45 分)

4.1. 実施内容

(1) 講義(5 単位)

「中堅研修コース」と同じ動画教材による講義を視聴し、文化庁（2019）の「日本語教師【中堅】に求められる資質・能力」、「日本語教師【中堅】研修における教育内容」について理解を深めます。講義 1 は Zoom によるライブ講義、その他はオンデマンド講義となります。講義とワークショップの詳細は以下の通りです。

	テーマ	担当講師	
事前動画	(1)コースガイダンス (2)研究倫理と著作権 (3)文献検索	(1)北出慶子(立命館大学) (2)小林ミナ(早稲田大学)	動画 3本
事前ワークショップ	インストラクショナルデザイン をもとにした研修設計 —中堅日本語教師を対象に—	鈴木克明 (武蔵野大学)	ライブ WS
講義 1	日本語教育施策の動向(仮)	文部科学省総合教育政策局 日本語教育課	ライブ 講義
講義 2	日本語教師と「熟達」(1)~(3)	横溝紳一郎 (西南学院大学)	動画 3本
講義 3	「実践を記述する」ということ	石黒広昭 (立教大学)	動画 3本
講義 4	課題解決のアプローチ(1)~(3)	石黒広昭 (立教大学)	動画 3本
講義 5	「実践」を振り返る/ 異なる実践をつなげる・つながる	横溝紳一郎 (西南学院大学)	動画 3本

(2)演習(30単位)

同期型研修の演習として、以下を行います。

- 【講師育成(研修企画)コース】オリエンテーション/事前セッション(計5単位)
研修開始時に受講者全体でオリエンテーション(2単位)と事前セッション(3単位)をします。事前セッションでは、鈴木克明講師(武蔵野大学)によるインストラクショナルデザインのライブ・ワークショップを受講し、「中堅研修コース」開始前に中堅研修コース受講生の学びや課題について把握するための方法を学びます。
- 【中堅研修コース】に係るスクーリング/成果発表会(計17単位)
「中堅研修コース」のスクーリング(計5回)にはアシスタントとして参加し(各2単位)、振り返りの事後課題(各1単位)を提出します(計15単位)。「中堅研修コース」の成果発表会にも参加し、質疑応答や意見交換を行います(2単位)。
- 【講師育成(研修企画)コース】中堅研修企画案検討会/中堅研修企画案発表会と/振り返り(計8単位)
中堅研修コースのスクーリング開始後は、8月、10月、12月の「中堅研修コース」スクーリング後の時間帯に、アシスタントとして入ったチームで気づいた中堅研修コース受講生による学びや課題について、他の講師育成(研修企画)コースの受講生や班のアドバイザーと共有します(計3単位)。そして、これらを踏まえ、中堅研修コース受講生にとって必要な学びやその学びを促進する方法について検討し、他の講師育成(研修企画)コース受講生やアドバイザーと共に中堅研修企画案に関する意見交換を行う研修企画案発表会(4単位)と振り返り(1単位)を実施します。

非同期型研修の演習としては、以下を行います。

全研修期間を通じ、LMS(WisdomBase)とチャットツール(LINE WORKS)を利用

して、講師育成（研修企画）コース受講生同士での意見交換、情報収集、成果報告などを行います（非同期型研修）。また、講師育成（研修企画）コース受講生が所属する班には、アドバイザーが複数います。アドバイザーもリソースの一つです。どのように活かして課題解決につなげるか、人的リソースの有効的な活用を体験します。具体的には、講義と演習の合間にLMSとチャットツールを利用して次のことを行います。

- ・ 各種課題の提出
- ・ 研修企画案進捗状況報告
- ・ 改善案の検討
- ・ 研修企画案発表会に関する協力・連絡
- ・ その他、個別のネットワーキング

研修企画案作成においては、インストラクショナルデザインや中堅研修でのアシスタントを通した中堅日本語教師の現状や成長に関する知見などに基づき、ニーズ分析、解決すべき課題の選定、研修方法の選択、研修目標の設定と評価について学び、他の講師育成（研修企画）コース受講生と意見交換しながら考えていきます。

(3)提出物

受講者は、研修期間を通じて次の3種類の成果物を提出しなければなりません。

1. 「振り返りシート」（中堅スクーリング各回後、個人で提出）
2. 「修了レポート」（研修終了時、個人で提出）
3. 「自己評価票」（研修期間中3回、個人で提出）

4. 2. スクーリング等の実施日程・提出物の締切

	は講師育成（研修企画）コースの同期型講義・演習です。
	は中堅研修コースのスクーリングです。
	は提出物と締め切り日を示しています。

月	日	曜日	時間	研修	内容あるいは提出物
7	6	土	13:00～17:00	【講師育成（研修企画）コース】 オリエンテーション・事前セッション	研修の趣旨や進め方の説明 インストラクショナルデザイン
7	14	日	17:00まで	振り返り	振り返りシート・自己評価票
7	27	土	13:00～16:30	【中堅研修コース】スクーリング 1 オリエンテーション・ライブ講義	スクーリング1に参加
8	4	日	17:00まで	振り返り・講義動画視聴・研修案検討	振り返りシート
8	24	土	13:00～16:30	スクーリング 2	スクーリング2に参加
			16:45～17:30	中堅研修企画案検討会 1	
9	1	日	17:00まで	振り返り・講義動画視聴・研修案検討	振り返りシート
9	21	土	13:00～16:30	スクーリング 3	スクーリング3に参加
9	29	日	17:00まで	振り返り・講義動画視聴・研修案検討	振り返りシート
10	19	土	13:00～16:30	スクーリング 4	スクーリング4に参加
			16:45～17:30	中堅研修企画案検討会 2	
10	27	日	17:00まで	振り返り講義動画視聴・研修案検討	振り返りシート・自己評価票
11	23	土	13:00～16:30	スクーリング 5	スクーリング5に参加
12	1	日	17:00まで	振り返り・講義動画視聴・研修案検討	振り返りシート
12	21	土	13:00～16:30	【中堅研修コース】成果発表会	成果発表会に参加
			16:45～17:30	中堅研修企画案検討会 3	
1	19	日	17:00まで	中堅研修企画案提出	研修企画案
1	25	土	13:00～16:30	中堅研修企画案発表会	
			16:45～17:30	中堅研修の振り返り	スクーリング参加の振り返り
2	16	日	17:00まで	研修企画案の完成	修了レポート・自己評価票

基本的に以下の全てに参加すること、全ての提出物を期限内に提出することが求められます。

5. 担当アドバイザー

犬飼英男（名古屋 YMCA 日本語学院）、今井武（石川県国際交流協会）、小河原義朗（東北大学）、御館久里恵（鳥取大学）、加藤林太郎（神田外語大学）、金子史朗（友国際文化学院）、菊池領子（R Production Inc.）、北出慶子（立命館大学）、黒崎誠（ラボ日本語教育研修所）、香月裕介（神戸学院大学）、小坂凜（京都産業大学）、嶋ちはる（国際教養大学）、嶋津百代（関西大学）、ツオイ・エカテリーナ（一橋大学）、時本美穂（サピエンツァ・ローマ大学）、中島祥子（鹿児島大学）、永田良太（広島大学）、布尾勝一郎（立命館アジア太平洋大学）、平山允子（日本学生支援機構東京日本語教育センター）、星摩美（福井ランゲージアカデミー）、間瀬尹久（HLA 日本語学校）、柳田直美（早稲田大学）、横山紀子（元・昭和女子大学）、吉川達（立命館大学）、義永美央子（大阪大学）

II. 受講者の募集について

1. 募集人数

10名程度

2. 応募資格と応募条件

(1) 応募資格

- ・文化庁（2019）『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』，p.31「表8」に記載されている「日本語教師【中堅】」としての十分な専門性と経験を有する者。
- ・現在，または将来的に中堅日本語教師研修の設計，企画，運営等をする可能性があり，日本語教育に貢献する意欲がある者。
- ・過去に中堅日本語教師研修を修了した者であることが望ましい。

※応募資格に関してご不明な点がある場合には「8. 問い合わせ先」にお問い合わせください。

(2) 応募条件

次の6つを全て満たすこと。

1. 同期型研修に出席できること。
「中堅研修コース」スクーリング（成果発表会を含む）と「講師育成（研修企画）コース」のオリエンテーション・事前セッション・中堅研修企画検討会・研修企画案発表会・振り返り全てに参加することを原則とします（I.4.2.に示した日程を確認すること）。
2. オンラインによる同期型研修／非同期型研修を受講できる通信環境とスキルを有すること。インターネット環境，機器，ソフトなどについては，受講者ご自身で整えていただきます。
3. 全研修期間を通じて，Zoom およびチャットツールによる意見交換，情報収集，成果報告などに積極的に参加すること。なお，同期型研修には，本名・カメラオンでご参加いただきます。
4. 日本語でのグループ活動，ディスカッション等の参加に支障がない程度の日本語力を有すること。
5. 参加にあたり，研修実施の妨げとなるような行為や言動を慎むこと。
6. 知的財産権，人格権（個人情報への守秘や肖像権への配慮等），研究倫理等について理解し，行動すること。

受講が決定しましたら，上記に関する同意書をご提出いただきます。なお，研修開始後，上記の条件を満たさないことが明らかになった場合，研修の継続をお断りさせていただくことがあります。

3. 修了判定

同期型研修と成果発表会への出席率 80%以上，および，課題提出率 80%以上を満たすことを前提に，60%以上の課題達成率を修了の要件とします。

修了判定の結果通知，および，修了証の送付は3月下旬を予定しています。

4. 応募方法

(1) 参加申込

以下のURLにアクセスし，必要事項を記入してください。締切日までに複数回の応募申請があった場合は，最新の日付のものを有効とします。

以下の申込URLは，中堅研修コース/講師育成（研修企画）コースに共通したものです。中堅研修コース/講師育成（研修企画）コースのどちらに応募するかをフォームの中で回答してください。

なお，中堅研修コース/講師育成（研修企画）コースの両方に同時に応募することは可能ですが，同時受講はできません。また，どちらのコースを受講していただくかはJCN研修運営委員会で審査の上通知します。審査の結果，どちらも受講不可となる場合もあります。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd5UNmG8ZrAmgEFDVMyGL4DiS7qjIXXrDeJVbEKfg7LufNnHg/viewform>
(上記のリンクをクリックしても Google フォームが開かない場合は、お使いのブラウザが最新版かどうかをご確認の上、リンクをコピーしてお試しください)

(2) 事前課題

以下に示す3点について、ご自身の現在の考えを1,000字程度でまとめて、ファイルを上記のURLからアップロードしてください(申込に関する情報入力完了後にアップロードが可能です)。ファイルはPDF形式で作成し、ファイル名を「JCN 育成(研修企画) 事前課題_氏名」としてください(例:「JCN 育成(研修企画) 事前課題_学会太郎」)。

なお、課題として考える中堅研修企画は、今回の中堅研修コース受講者を対象としたものにする必要はありません。

事前課題

本研修は、中堅日本語教師の研修を企画し、講師として研修を運営・実施できる人材の育成を目的としています。そして、並行して行われる【中堅研修コース】の各活動を観察し、研修のデザインや中堅の学びや課題、問題解決の方法を間近で観察することにより、中堅日本語教師に求められる資質・能力やその育成方法について考察をしていきます。

本研修参加にあたっての事前課題として、以下の3点について、現在のご自身の考えを記してください。

- ① 中堅日本語教師に対して、どのような研修を企画したいと考えていますか。
- ② ①の企画を考えるに至ったご自身の経験および日本語教育の現状について説明してください。
- ③ ①の企画を実際に運営・実施するにあたって、この研修で何を学びたいと考えていますか。

上記3点についての現在のご自身の考えを記してください。合わせて1,000字程度(A4版1枚)にまとめてください。

(3) 応募締切: 2024年5月31日(金) 23:59 (JST)

5. 選考

提出された書類を審査し、2024年6月20日(木)までに電子メールにて受講の可否を通知します。選考料は無料です。

6. 受講料

受講料は、一人20,000円(LMS使用料・教材費等を含む)です。

受講が決定しましたらメールでご連絡しますので、指定日までに銀行振込にてお支払いください。あわせて、II. 2.に記載した同意書をご提出いただきます。なお、遠隔による研修を受講する上で必要な環境の整備・通信費などは各自の負担となります。また、一度納入された受講料に対して、返金は認められません。

7. 注意事項

・本研修は、文部科学省「現職日本語教師研修プログラム普及事業 日本語教師【中堅】」に対する研修を日本語教育学会が受託して実施するものです。研修期間に作成した資料、成果物、LMSでのやりとりなどは、他の受講生、アドバイザー、日本語教育学会が行う研修評価、研究活動等において利用・分析される場合があります。詳細は研修開始時に改めて説明します。なお、記録のため、同期型研修の様子を録画します。

・2023 度までの講師育成コースの受講生は、メンターとして中堅研修コースにかかわっていました。2024 年度の講師育成（研修企画）コースの受講生は、中堅研修コースにはメンターとしてではなくアシスタントとして関わり、中堅日本語教師への研修企画の設計・作成することが主な内容となります。

8. 問い合わせ先

公益社団法人日本語教育学会 JCN 研修事務局
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会 2F
Tel: 03-3262-4291 E-mail: jcn_office@nkg.or.jp